きゅうり これからの管理

ハウス内の温度管理は外気温に合わせていく時期になってきます。ハウスの開口部分をできる限り開け、ハウス内が高温状態にならないように管理していきましょう。

また、今年はアザミウマばかりではなく、アブラムシの発生数も多いので注意しましょう。

『温度・湿度・潅水管理について』

ハウスを開ける時間が長くなるにつれ、ハウス内は乾燥してきます。また、日長も長くなりますので蒸散量が増え、葉の消耗も激しくなります。潅水量が不足すると果形の乱れや草勢の低下につながります。十分な潅水と草勢維持を行なって下さい。

先細果の発生は水分不足や高温管理になると発生やすくなります。日中の温度はできる限り下げ、夕方は早くハウスを閉めないようにしましょう。

加温機はまず稼動しなくなりますので、曇雨天時での多湿条件を避けるために、循環扇及び加温機送風、換気扇の活用を行なって下さい。

全面マルチの方でハウス内が乾燥するため、通路のマルチを取ろうとされますが、できればマルチはそのままにしておきましょう。マルチを取った後に通路の根がなくなり病気が多発する可能性があります。

『整枝・誘引作業について』

つる下ろし栽培では遮光を行ないながら、つる下ろし作業が遅れないように管理しましょう。力枝の伸びが良すぎる場合には遮光を控える事も必要ですが、ハウス内が高温になるようであれば陽射の強い時間帯での遮光も考えましょう。

摘芯栽培につきましては、側枝の動きが良い場合には摘芯及び摘葉作業を積極的に行なうようにして下さい。逆に、動きが悪い場合には摘芯作業は控え、摘葉作業を中心に管理しましょう。できる限り上段部分が過繁茂状態にならないように心掛けましょう。

成り疲れによる草勢低下時には、極端な摘芯・摘葉作業は控えましょう。

『肥料管理について』

潅水量が増加する分、追肥の量も増やしていく必要があります。ただし、葉色が濃い場合は追肥は控える必要があります。葉色を見ながら、追肥の量を調整していきましょう。

圃場によっては、水がたまりやすい場所で葉が黄色くなるところがでてきます。通路に部分的な追肥を行なう方法や、潅水チューブを絞る、または潅注を行なう等の対策を講じ、葉色の改善を行なって下さい。

草勢の低下が著しく出てくる時期にもなります。潅水での追肥だけではなく、葉面散布による追肥も行なっていきましょう。

『病害虫防除について』

例年では５月下旬から梅雨に入ってきます。成り込み等での草勢低下による、ベト・褐斑病の発生が考えられます。葉の濡れを押える為に循環扇・換気扇・送風を活用し、しっかりと予防防除を行なっておきましょう。また、ハウス外からの害虫飛来やハウス内での害虫増殖スピードが速くなる事により害虫密度が増加してきます。粘着板の設置や微生物農薬等の混用散布による増加抑制対策を講じましょう。

農薬防除以外でのハウス内外の除草の徹底を行なって下さい。収穫や肥培管理等で手が回らなくなりがちになってきますが、しっかりと除草対策を行なう事により害虫の増殖源を少しでも抑えていきましょう。

アブラムシについては、ネオニコチノイド系（モスピラン・アドマイヤー系統剤）の薬剤での感受性低下が見られます。薬剤としてはウララ・チェスを発生が確認されたら優先して散布して下さい。

きゅうり黄化えそ病の多発防止の為、しっかりとした管理を行なって下さい。

薬剤ローテーション等で分からない点がありましたら、担当者まで御相談下さい。

※きゅうり作付終了後は必ずハウスの蒸し込みを行ない、ハウス内の害虫はハウス内で駆除した後に片付けを行なって下さい。

果樹園の管理（５月）

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。５月の果樹園の管理は以下の通りです。

１．かんきつ類全般

１）剪定、縮間伐

収穫の終了した園地では、早めに剪定を終わらせましょう。また、密植園では、樹幹上部しか光が当たらず、内部の葉が減り、枝が立ち貧弱な樹となります。さらに、果実肥大や品質が劣り、収量も低下し、さらに防除や収穫の作業能率も悪くなりますので縮間伐が重要となります。

剪定の方法は立枝を間引き、樹幹内部まで光が当たるようにします。今年は裏年ですので軽めの剪定とします。

２）葉面散布の実施

発芽から緑化までの期間中は、葉面散布を実施して下さい。

…粟粒期から白化期はじょうのう数が決まる重要な時期です。

そのため、多くの窒素分を必要としますので、白化期までに最低２回の葉面散布を実施しましょう。

目安→パワフルグリーン２号800倍又は尿素500倍（１週間間隔）

…葉面マグ200倍やスイカル300倍を散布して、春芽の緑化、硬化を早めましょう。

２．日向夏の管理

１）人工受粉

日向夏は自家不和合性ですので、必ず人工受粉を実施してください。

－方法－

１　受粉に使用する花を採取します。（開花直前の花のみ）

２　葯を採取後、乾燥通風状態で20～30時間かけて乾燥させます。
※開葯温度は25℃～30℃程度を保って下さい。
※直接葯に風が当たらないよう新聞紙等で包んで開葯させます。
※乾燥の目安は指に黄色い花粉が付く程度です。

３　精製した花粉は２～５倍程度に希釈して受粉に使用します。
※少核栽培の場合は花粉１：石松子２～３で希釈してください。

４　保存する場合は、パラフィン紙等で少量ずつ包み、乾燥剤を入れたタッパーに入れ、冷凍庫で保存してください。

２）夏肥の施用

５月中旬に夏肥を施用してください。

日向夏特号…80ｋｇ／10ａ

（かんきつ肥料でも代替可能です）

３）病害虫防除

月	旬	対象病害虫	使用薬剤	希釈倍数	使用方法
5	上	訪花害虫 灰色カビ病	モスピランＳＬ（液） ストロビードライ(FL)	２０００ ２０００	混用
5	中	灰色カビ病 チャノホコリ スリップス	オーシャイン（水） コテツ（FL）	２０００ ４０００	混用

※訪花害虫の防除は一斉防除となります。

３.スイートスプリングの管理

１）病害虫防除

スイートスプリングは毎年、かいよう病等の被害が出ています。そのため、予防散布は必ず実施して、発病を抑えましょう。

また、かいよう病の被害枝は剪定時に必ず除去して下さい。

病害虫名	使用薬剤	希釈倍数	希釈倍数
かいよう病	Ｚボルドー	５００倍	混用散布
	バイカルティ（水）	１０００倍	

４.ハウスぶどうの管理

１）新梢の誘引、摘心

長梢剪定の場合、先端部だけに強い芽が発生しやすいので、発生した場合は早めに芽かきを行い、生育を揃えます。また、新梢の伸びに合わせて棚面に誘引し、通風、採光を良くします。強い芽が発生した場合は先端を軽く摘心し、生育を揃えるようにして下さい。

２）摘房

摘房の時期は、早いほど着色向上などの効果が大きくなります。そのため、開花前の副穂の除去と同時に目標房数の1.5倍位に整理して下さい。実止まりが確定したら早目に目標房数として下さい。

標準着房数

１０ａ当収量目標（ｔ）	１０ａ総房数	１房重量（ｇ）
１．２	３５００	３５０

３）花穂の整形及び時期

開花直前～全花蕾開花時に花穂の整形を行って下さい。

方法は、副穂を除去し、上部と下部の花穂を除去して、13～15段（８～10㎝）に整形します。

※農薬の使用については、使用基準（適用作物、使用倍数、使用回数、収穫前使用日数等）を守って使用してください。少しでも不明な点がありましたら担当者にご相談下さい。

連絡先……果樹農産課　　電話　７７－２２１６

露地野菜生産者のみなさまへ

毎日の管理作業、お疲れ様です。春作では、収穫が徐々に増える時期になってきました。収穫を前に、除草の遅れや排水不良による腐敗等の発生が多く見られますので、排水溝を作るなどの排水対策を必ず行って下さい。

また、気温が高くなり、日中は暑さで作業がつらくなる時期になってきました。梅雨に入ると晴天と曇雨天時の気温差が大きく、体調を崩すことも考えられます。体調に留意し、管理作業を行って下さい。

［これからの管理］

・里　芋・

晴天が続くとアブラムシやヨトウムシの発生・被害が見られます。新芽が加害されると生育不良になりますので、被害がある前に予防策を徹底するようにして下さい。

里芋は干ばつに弱いので降雨の無い場合は灌水を行って下さい。大雨により圃場に長く水が溜まると根傷みし、水晶芋の原因になりますので排水溝の整備を必ず行うようにして下さい。

・ジャガイモ・

湿害に非常に弱い為、排水溝の整備を行って下さい。開花後30日程度で収穫となります。疫病予防と、アブラムシの発生が予想されますので、木酢液の散布等を行って下さい。収穫・出荷は出荷規格に基づき行って下さい。

収穫遅れは二次生長の原因となります。品質の良い状態で出荷して下さい。

・春人参・

毎年、収穫前の降雨による腐敗等が目に付きますので排水溝の確保・整備等を行って下さい。間引き不足は病害発生や品質低下につながります。最終間引きで最低８cmはあけて下さい。契約栽培では小規格（80ｇ以下）の受入はしませんのでご注意下さい。

・白ネギ・

１型苗の定植が終わり、草勢が出始めてくる頃と思います。品種により、管理方法が異なりますのでご注意下さい。定植後は、降雨による被害が多い為、排水溝の整備等を必ず行うようにして下さい。定植前には必ず基肥を施用して下さい。

定植後、スリップスやヨトウムシなどが発生しますので、予防策を徹底して下さい。

・甘　藷・

出荷予定は６月下旬からとなっています。全員で出荷を始められるように管理の徹底を行って下さい。排水不良による腐敗等も予想されますので、排水溝の整備も行って下さい。アブラムシ・ダニ等の発生は生育を阻害しますので予防策を徹底して下さい。また、予防策や、害虫の発生がありましたら、担当者に相談して下さい。対応策を検討致します。

・かぼちゃ・

アブラムシ、コナジラミ等やウドンコ病等の発生により生育が阻害されますので、シルバーテープ等の設置等、予防策を充分行うようにして下さい。

坊ちゃん南瓜は追肥が遅れると草勢が弱り、病害の発生や、着果不良となります。有機質肥料は施用後７～10日後に肥効が始まり、ピークは20日後になります。
早めの施用に心掛けて下さい。

・白ごぼう・

収穫前になりますが、芯にアブラムシが付着すると生育不良となり、収穫後の品質低下にもなりますので、予防策を行って下さい。

降雨後の収穫は土壌が乾燥してから行って下さい。貯蔵中の腐敗の原因となり、クレームにもつながります。

◎そ　の　他

春作、秋作の中間の期間で、休みの圃場も増える頃となります。作物が入っていない圃場には緑肥作物を導入し、秋作の準備を行うようにして下さい。また、４～５年以上休ませていない圃場でも、緑肥作物を作付けする事で地力の回復にもつながりますので、作付を行って下さい。

生育が思わしくない圃場では、センチュウ検査と土壌分析をすることをお勧めします。連作障害等もありますが、品質と収量を確保するために、作付けの無い圃場では、検査をするようにお願い致します。

土壌の持込は、生産指導課まで。